

視察ルポ

(議会運営委員会)

六月議会で、来期より定数二名減の二十名とした。これに伴う課題解消のため、七月十一日から三日間の日程で、先進市である大阪府守口市、羽曳野市、及び岐阜県羽島市を視察した。

【守口市】

危機的な財政状況を脱するため、他市との合併を協議したが、住民投票で破綻、同時に財政危機特別委員会を設置、報酬削減、行政視察旅費を廃止し、十九年四月から定数八名減の二十二名に決定。常任委員会→四委員会、議会運営委員会→九人

【羽曳野市】

自治会、婦人会から定数削減が要望され、議会改革特別委員会の設置と同時に



羽曳野市で議会運営の視察研修

政視察旅費の削減、費用弁償の廃止。十三年から定数二名減の二十名に決定。常任委員会→三委員会、議会運営委員会→七人

【羽島市】

積極的に財政健全化に貢献するため、議会改革特別委員会を設置し、定数や報酬の見直しを検討、十九年四月から定数三名減の十八人に決定。常任委員会→三委員会、議会運営委員会→八人

視察した三市における定数削減の動機は、合併破綻、住民からの要望、議会主導とそれぞれ異なるが、目標は国の行財政改革のもと、地方交付税が大幅に削減され、厳しい財政状況に乗越えるための取り組みである。

早速、今後の議会運営全般について、特に常任委員会の数、所管の振分け等の作業に取り組みたい。

会派視察報告

(公明党)

公明党会派四名で七月十八日より三日間、視察を行った。

【石巻市】

漫画家の石ノ森章太郎氏ゆかりの地域性を活かし、マンガアイランド構想を基に、ユニークなまちづくりに取り組ん



八戸市で中学校四季制について調査

でいる。町中にマンガキャラクタの像が設置され、イメージの一体感があり、また「石ノ森漫画館」の入館者は多く、かなりの経済効果も上がっている。

新人の発掘、マンガによる「総合学習」「郷土史の作成」等、地域性を活かしたまちづくりを感じた。

【八戸市】

中学校、四季制について、教育の原点は愛であり、情熱であるというスローガンを掲げた北稜中学校を訪ねた。学校の経営方針として三ヶ月を一区切りし、子ども自ら目標を掲げ四回のチャンスにチャレンジするという取組みである。その結果、挑戦する心が養われ、自信を持つという効果もある。夏には、自由参加の宿泊学習会を行い、ほとんど全員参加してい

るなど活気のある中学校だった。

会派視察報告

(近未来春日塾)

近未来春日塾は、平成十八年七月二十四日から二十六日までの日程で石川県金沢市、財団法人いしかわ子育て支援財団、加賀市、福井県越前市の行政視察を行った。

金沢市では、中学校選択制度について視察した。この制度は、通学区域の中学校への入学を基本としながら、通学区域外の中学校への入学を希望する場合には、それぞれの中学校の受け入れ枠の範囲内で、入学を可能とするものであった。

いしかわ子育て支援財団では少子化対策プレミアムバスポ

ト事業について視察した。三人以上の子供を持つ家庭を、県内の協賛企業が支援する事業で、発行されるバスポートの提示により割引・特典が受けられるものであり、自治体と企業が協力し合って少子化対策に取り組まれている。

次に加賀市では、市の体育、文化施設などの管理運営業務を百%市が出資する株式会社設立、社長の公募等について視察した。斬新な考えではあるが、成功するか否かは、今後の経過を観察する必要がある。

最後に越前市では、男女平等参画推進条例、男女共同参画コンプト制度について視察した。越前市では、早い段階からこの問題に取り組み、条例制定に至るまで相当の時間をかけ調査研究が行われていた。



いしかわ子育て支援財団で視察研修

常任委員会視察ルポ

文教委員会視察ルポ

五月十七日から十九日、少人数学級・小中学校の国際交流について(豊田市)、市民芸術館・ハーモニーホールについて(松本市)、ピオトーブづくり・メ

ダカの学校について(多治見市)を行政視察したが、当市にも導入したいと思えるような施策のヒントが多々あった。

豊田市ではよりきめ細かい教



ピオトーブの視察(多治見市)

育の推進のため小学校一・二年生、中学校一年生を対象に、三十五人学級を導入しているが、良好な人間関係を築け、学習効果が大きいという話は印象的だった。国際交流では夏休みに中学生を海外派遣する事業や小学校での英語教育推進など予算もかけた幅広い取り組みを行っていた。

松本市では、文化施設を視察した。ハーモニーホールには最高のパイプオルガンと常勤のプロオルガン奏者が日常的に本物の音楽を提供しており、市民芸術館は四層のバルコニーを備えた画期的な施設で、休館日がなく、稼働率は八十%と高く、両施設とも市民の芸術活動を支援し、本物を提供するという運営姿勢に圧倒された。

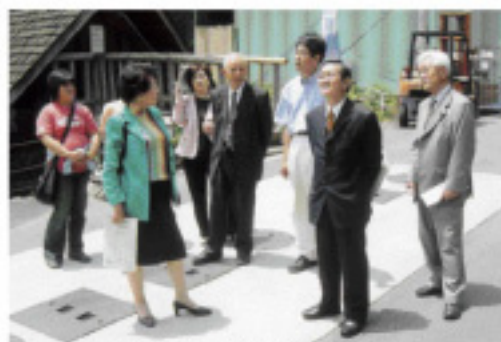
多治見市での市職員提案によるピオトーブづくりは、子どもを中心にして、市、学校、地域の協働により四箇所を完成させ、自然とのふれあいは、人と人とのふれあいに通じるという話やつくる経緯の話は新鮮だった。

厚生委員会視察ルポ

今年度より障害者自立支援法が施行されたことにより、障害者を持つ人が自立できるだけの収入が伴う就労体系を取られている施設を五月二十三日、二十五日まで視察を行なった。

社会福祉法人武蔵野千川福祉会に属する知的障害者小規模通所授産施設「チャレンジャー」ではメール便の梱包作業、製品への袋詰めを能力にあった仕事を利用者で流れ作業で従事されていた。

足利市の山あいにある知的障害者入所更生施設「こころみ学園」は男女合わせて九十人の入所者が生活しており、日常的な掃除洗濯調理等も仕事として役割をつけている。作業はワイン用のぶどうの植栽、シイタケ栽培、植樹、間伐、下草刈など。ぶどうの仕込にはぶどうの選別作業が重要になるが彼らは手を



ワイン工場(足利市のこころみ学園)

抜くことをせず、丹念に選り分けることによって品質が良い製品ができる。その成果は二〇〇五年に開催されたサミットの晩餐会用のワインに選ばれている。瓶詰めの段階でコルクのくずなどが混入することがあるが、これを見つづけるのも彼らの感が働くとのこと。

千葉市にある「オリーブハウス」はアイスクリーム・クッキー製造販売、などで利用者の月収は平均六万円。

今回、訪問した施設はすべて優秀な施設であった。「障害者に利用料を払わせるのは心苦しいが施設運営に補助がなくなるので背に腹は替えられない。法のあり方に苦慮する。」と何れの施設長も話されていた。

編集後記

今年も残り少なくなってきました。一年を振り返ると、親子の絆を大事にしてほしいような暗い出来事が多かったような気がします。

このような中、大変おめでたい出来事がありました。それは、秋篠宮妃の紀子さまが男の子を出産され、日本中の誰もが祝福したのと同じです。これがきっかけとなったのか、下降していた出生率が、今年の上半期では伸びており、これから先も、この勢いでぐんぐん伸びて、ベビーブーム再来とまらないものと願っています。(浩孝)

議会報編集特別委員会
委員長 長谷能文
副委員長 谷能成之
委員 松尾浩孝
委員 柴田英明

